

交換留学「留学計画書及び推薦書」作成のために

■ 交換留学とは

交換留学は、北海道大学と大学間あるいは部局間で学生交流協定を結んでいる海外の大学と双方向の学生交流を行う制度です。この制度を利用した留学では、北海道大学の学生として、海外の協定大学で1学期間あるいは1年間学びます。本学と海外の協定校との大学間連携のもとに学生の受入れと送り出しが行われるため、双方の大学で学生サポートが行われるとともに、原則として、留学先大学での学費が不徴収になります。つまり、この制度へ応募し、選抜された学生は、本学と海外協定校とのネットワークのもとに国際的な学びを得る貴重な機会を得ることになります。

留学や海外研修は、本学の4つの基本理念のもと、「専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見、並びに異文化理解能力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する」（「北海道大学近未来戦略 150」より）学習方策の一つです。それゆえ、異文化・異環境での学修が、現在所属する課程の学びに資するものになることが期待されます。

■ 留学計画の重要性

留学を通じた学びは、留学を検討し、留学計画を立てるところから始まります。留学先での充実した学びを実現するため、自らの留学の目的を考え、留学希望先でどのような学習ができるのか、どのような学生生活を送ることができるのか、等について十分に調べた上で、留学計画を立てましょう。さらに、留学希望先の国・地域についての情報も十分に集めておきましょう。しっかりとした留学計画は、留学経験の質を高めるだけでなく、留学における危機予防・管理のためにも重要です。

なお、交換留学制度の説明やメリット、デメリット、学生の体験談などが、毎年発行される「北大生のための留学ハンドブック」（ホームページにも掲載）に掲載されていますので、熟読の上、応募してください。わからないところ、確認したい点等があれば、国際交流課（学生交流ステーション 1F）に問い合わせてください。

■ 留学計画書及び推薦書の記入にあたって

「留学計画書及び推薦書」の記入にあたっては、希望する大学と授業について、大学のウェブサイト等でよく調べた上で、記述してください。各項目について、求められている字数で、十分に説明してください。

<留学計画書>

1. 留学の目的（600～800字）

あなたの留学の目的を明確に述べてください。希望大学を選んだ理由および留学期間を通して得たいことや達成したいことを含めて記述してください。その上で、交換留学が大学卒業後の目標やキャリアプランとどのように結びついているか説明してください。

2. 学習計画 (800～1,000 字)

留学目的の達成のための履修計画を含む学習計画を記述してください。それを今後の専門分野での学習・研究にどのように反映させるのかを述べてください。また、所属学部等のカリキュラム上、交換留学による留年の可能性がある場合、そのことについて了解しているか、どのように考えているかも含めて書いてください。

※特に、語学科目が多い場合や学部（学院・研究科）等で専攻する分野とは異なる内容である場合は、現在の専門分野での学習とどのように関連しているか、説明してください。

3. 授業履修計画

➤ 「2. 学習計画」をもとに、具体的な履修計画を項目に従って記載してください。授業内容についてはシラバス等を読んで理解した内容を日本語で説明してください。

➤ 複数学期留学する場合は、学期ごとに履修予定の授業科目の情報を入力してください。履修しなければならない授業科目の単位数は、留学先国の入管法等に定められている場合があります。事前に調べてから入力してください。

➤ 交換留学は、本学での単位認定が可能な専門科目を学ぶことが目的です。卒業要件単位をすでに満たしている場合でも、大半の授業で大学での単位認定を行わないような申請は、原則認められません。

※履修したい科目の内容とレベルを調べることで、計画の具体性が高まりますので、十分に調べ、全ての項目について、記入してください。

4. 準備状況と今後の計画 (600～800 字)

上述の学習計画を遂行するために必要な準備学習、希望大学および当該地域・国についての情報収集、学習言語・生活言語の学習、その他準備すべき事柄について、現在の準備状況と今後の計画を、時間軸を含めて具体的に説明してください。

<推薦書>

申請者が、留学計画書を作成した上で、部局担当教員*及び指導教員**に提出し、留学計画について十分に相談した上で、推薦書を依頼してください。

*部局担当教員：学生の所属学部（学院・研究科等）の教務委員、国際担当教員あるいは学科・専攻の長など留学中の履修計画を確認できる教員のこと。

詳しくは、所属学部（学院・研究科等）の教務担当窓口で確認すること。

**指導教員：指導教員が不明の場合には、所属学部（学院・研究科等）の教務担当窓口で確認すること。